

【活力】 7. 活力みなぎる地域づくりの推進

(1) 地域の元気の創造

■ 現状と課題

- ・人口減少や高齢化の進行により、地域の精神的支柱である祭りや伝統芸能の担い手や後継者が不足するなど、地域活力が減退しています。今後も住み慣れた地域にいつまでも住み続けるためには、地域資源の活用や仕事の場づくり、伝統文化の継承など活力を生み出す取り組みが必要です。
- ・別府、国東、竹田をはじめとして、芸術文化を通じた新たな地域づくりの動きが始まっています。
- ・世界農業遺産や日本ジオパークなどのブランド力を活用した地域の元気づくりが期待されています。
- ・平成25年度の「空き家実態調査」の結果、10,865件もの空き家があり、その7割は利活用が可能な空き家であることが判明しました。そこで、地域の元気創造のため、これらの空き家や廃校を活かしたコミュニティ維持、活性化に資する地域ぐるみの取り組みを強化していくことが必要です。

■ これからの基本方向

- ・地域の様々な主体が行う、地域資源を活用した新たな取り組みへのきめ細かな支援を引き続き行います。また、近隣集落と連携した祭りや伝統芸能の保存・継承に取り組めます。
- ・歴史や文化、地理、地質などの地域の特徴を活かしたブランド力による新たな地域づくりの展開を図ります。
- ・芸術文化関係団体や施設、市町村等と連携して、芸術文化の創造性を活かした地域づくりを推進するほか、国際スポーツ大会の事前キャンプや国内スポーツチームの合宿を活用した地域の活力づくりを推進します。
- ・地域づくりに資する人材の育成・確保に市町村や関係機関と連携して取り組みます。
- ・空き家等の積極的な活用により魅力的な地域づくりを推進します。

■ 主な取り組み

①元気で活気あふれる地域づくりの推進

- ・地域資源を活用した様々な地域づくりのさらなる推進
- ・地域の祭りの広域開催や伝統芸能等の保存・継承の支援
- ・グリーンツーリズム、ブルーツーリズムなど都市との交流による農山漁村の活性化
- ・道の駅、里の駅、加工所、直売所などの機能充実やコミュニティビジネスの支援による地域経済の活性化
- ・地域づくりに関わる団体と道の駅、里の駅など各種施設との協力関係の構築

②特徴ある地域づくりの展開

- ・世界農業遺産、日本ジオパークの活用や宮崎県と連携したユネスコエコパークの登録推進によるブランド力を活かした地域づくり
- ・アートを活用した新たな地域コミュニティの創出や芸術文化の振興と地域振興の一体的な推進
- ・国際スポーツ大会のキャンプ誘致国やスポーツ合宿に来県したチームとの交流を通じた地域振興の推進

③地域づくりを支える人材の育成

- ・ツーリズム大学を通じた地域づくり人材の育成
- ・集落等のニーズをとらえ、行政やNPO等との橋渡しをする人材の育成
- ・地域の伝統文化や自然を通じた住民の地域アイデンティティの確立への支援

④空き家の利活用の推進

- ・空き家を活用したふれあいサロンの設置など地域活動への支援
- ・空き家利活用情報の提供と活用促進のPR
- ・市町村の相談体制の確立への支援

⑤地域に活力を生み出す経済基盤の安定と仕事づくり

- ・県内6振興局ごとの特徴を活かした産業振興や仕事づくり

■ 目標指標

指標名	基準値 (H26年度)	目標値	
		H31年度	H36年度
地域活力づくり取り組み件数(累計)	645件	1,155件	1,670件

【活力】 7. 活力みなぎる地域づくりの推進

(2) 特徴ある地域づくり

I 東部地域

■ 現状と課題

- ・ 東部地域では、大規模な農業への企業参入も見られる一方で、高齢化率が県平均を大きく上回り、担い手不足が深刻となっている地区が増加しています。そのため地域経済を支えていく経営体の誘致、育成が急務となっています。
- ・ 別府、国東半島には、豊富な温泉に加えて、独特の歴史や文化、日本ジオパークに代表される自然があり、また、世界農業遺産に認定された豊かな農林水産業等の地域資源が観光に活かされていません。
- ・ 国東半島には、神仏習合やケベス祭りに代表される奇祭など古くからの文化があります。また、近年、工芸や現代アートなども集積しつつあります。
- ・ 東部地域には、企業誘致により多くの工場が立地していますが、最近では海外や国内の最新工場との競争が厳しくなっています。

■ これからの基本方向

- ・ 食生活や小売業が大きく変化している中、それらに対応できるよう生産から流通までのシステムの見直しを進め、新たな農林水産業の展開を図ります。
- ・ マーケットからの需要に応えるために、新しい品目の導入を促進するとともに、農林水産業の高付加価値化を進めていきます。
- ・ 観光においては、地域の文化や自然、産業、さらには、そこに住む人々のホスピタリティなどを結びつけ、総合力を高めることにより、「おんせん県おおいた」のさらなる浸透を図ります。また、県北8市町村が連携して取り組む広域観光「豊の国千年ロマン観光圏」を確立します。
- ・ 伝統、文化、芸術、工芸、スポーツなどを活かした地域の活性化を図ります。
- ・ 誘致企業へのフォローアップと地域の特性を活かした企業の誘致を推進します。

■ 主な取り組み

①時代の変化に対応する農林水産業の創出

- ・ 気候特性を活かした果樹、茶、施設園芸等への企業参入の促進と農業者による企業的経営への転換
- ・ バジルやカボス、オリーブなどの小売業や食品関連企業と連携した品目生産による経営安定化
- ・ 七島イやしいたけに続く世界農業遺産ブランドの海外展開
- ・ 漁船漁業を補完するカキやワカメ等の養殖漁業の振興による複合経営の促進と車えびしゃぶしゃぶなど食べ方の提案等による地元消費の拡大

②「おんせん県おおいた」と「豊の国千年ロマン観光圏」の推進

- ・ 外国人観光客のニーズへの対応やヘルスツーリズムの推進等による新たな別府観光の展開
- ・ ゆっくり巡り文化・自然・食・温泉を楽しむ「豊の国千年ロマン観光圏」の戦略的発展
- ・ 航空機、フェリー等の利用客を周遊観光へ導く交通システム整備
- ・ 地域の魅力をつなぐ観光プロデューサーやガイド等の人材育成

③文化・伝統、アート、スポーツによる地域の活力向上

- ・ 六郷満山文化や伝統的な祭の維持・伝承と情報発信
- ・ 芸術文化ゾーンと連携した芸術文化の振興やアーティスト等の移住促進
- ・ サイクリングやマラソン等の大規模スポーツ大会の支援強化
- ・ 世界農業遺産や日本ジオパークなど地域独特の資源を活かした誘客

④誘致企業へのフォローアップと地域の特性を活かした企業の誘致

- ・ 企業訪問の強化による誘致企業への適切かつ迅速な対応
- ・ 空港の利便性を活用したベンチャー企業の誘致
- ・ 豊富な農林水産物等の地域資源を活かした企業の誘致・育成

【活力】 7. 活力みなぎる地域づくりの推進

(2) 特徴ある地域づくり

II 中部地域

■ 現状と課題

- ・ 県内の各市町村から大分市への転出が続いており、隣接する臼杵市と由布市ではこの傾向が顕著となっています。一方、大分市では、20代の若年層を中心に県外への流出がみられることから、働く場に加え、芸術、文化の広がりなど創造性や想像力を発揮できる若者に魅力的なまちづくりが必要です。
- ・ 東九州自動車道の全線開通を踏まえ、旅客数が伸びているフェリー航路（大分～神戸、佐賀関～三崎、臼杵～八幡浜）との連携を一層強化することが求められます。
- ・ 大分市の施設園芸、関あじ関さばの一本釣り漁業、臼杵市の有機農業、かぼすブリの養殖、津久見市の柑橘類栽培、由布市の梨栽培や畜産業など特色ある農林水産業を展開していますが、力強い経営体の育成と後継者の確保が課題となっています。
- ・ 大分市臨海部の重化学工業、臼杵市の醸造業及び造船業、津久見市の石灰・セメント産業、由布市の観光業など特色ある産業が立地しており、労働力人口が将来にわたり減少していくなかで、必要な労働力を確保し、地域経済を活性化していくためには、若者を中心とする地元企業への就職と定住促進が不可欠です。

■ これからの基本方向

- ・ 県立美術館や大分市美術館、商店街、大分駅ビル等が集積する大分市中心市街地の魅力を高め、若者を惹きつけるまちづくりと賑わいを創出するとともに、各地域の連携を図ります。
- ・ 九州の東の玄関口としてのメリットを活かし、地域間連携を図るとともに、魅力ある「食」や広域観光を推進し、交流人口の増加に繋がります。
- ・ 農林水産業の新たな担い手の確保と、力強い経営体の育成を促進するとともに、安全安心な農林水産物の生産振興、ブランド化、輸出の促進、6次産業化を推進します。
- ・ それぞれの地域の製造業や観光業等の特色ある地場産業の強みを活かし、発展させるため、後継者や技術者の育成等を進めます。

■ 主な取り組み

①芸術文化の創造性を活かした魅力あるまちづくりの実現

- ・ 県立美術館や大分市美術館、商店街、大分駅ビル等との連携による大分市中心市街地の活性化
- ・ アートや音楽を活用したまちなかの賑わいづくりの支援
- ・ 県立美術館と各地域の芸術文化施設との連携による魅力の創出
- ・ ラグビーワールドカップ2019、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた魅力ある文化プログラムの展開への支援
- ・ 大分市及び臼杵市、津久見市、由布市等による広域連携の推進

②地域特性を活かした観光振興による交流人口の増加

- ・ 九州の東の玄関口として、フェリーと高速道路を併用した地域間連携の推進
- ・ 国内外から人気の高い湯布院を起点とする広域観光の推進
- ・ グリーンツーリズム等の体験型プログラムの拡充
- ・ 関あじ関さばや臼杵のふぐ、津久見のまぐろ等の「食」による魅力アップ
- ・ 特色ある観光資源を繋ぐ連泊の推進

③地域の特徴を活かした力強い経営体の育成と地域ブランドの確立

- ・ 人口と企業が集中する都市近郊型の特徴を活かした、農業への企業参入の促進、就農学校の拡充等によるU I Jターンの受入れ、佐賀関の一本釣漁業の若手後継者確保・育成
- ・ ニラ、ピーマン、高糖度甘藷等の規模拡大の推進
- ・ 養殖ブリや養殖マグロの生産・輸出の拡大、カマガリ等の地域水産物の商品化
- ・ G A P、有機J A S、安心いちばんおおいた産農産物の認証推進
- ・ 大葉、ミツバ、イチゴ、茶等のG A Pの取得拡大、大型堆肥センターを活用した有機J A S認証農産物の取り組み推進、安心いちばんおおいた産農産物の認証推進
- ・ 海岸部から中山間地にわたる地域特性と多様な農林水産物を活かした地域ブランドの育成・確立

④特色ある地場産業を担う人材育成

- ・ 醸造業や造船業、石灰・セメント等の地場産業を担う後継者、技術者の育成・確保
- ・ 津久見高等学校工業科・海洋科学学校、由布高等学校観光コース等の地場産業と関係の深い教育機関との連携による人材育成

【活力】 7. 活力みなぎる地域づくりの推進

(2) 特徴ある地域づくり

Ⅲ 南部地域

■ 現状と課題

- ・海面養殖業は、ブリ・ヒラメを主体に全国トップレベルにありますが、価格変動やコスト上昇などにより厳しい経営状況となっています。
- ・造船業は、円安効果による新規受注の増加により、概ね経営は改善していますが、人員の確保などが課題となっています。
- ・林業は、全国屈指の大型製材工場を核に造林から製材加工までの一貫した木材生産（佐伯型循環施業）を全国に先駆けて推進しており、さらなる素材生産体制の強化と再造林のための苗木確保が必要となっています。
- ・農業分野では、主に温暖な気候に適した園芸品目が生産されていますが、生産体制の脆弱さや担い手不足が懸念されています。
- ・平成27年3月に開通した東九州自動車道の利用者が増加する中、通過されない魅力ある観光地づくりが必要です。
- ・また、今後50年以内の発生確率が90%程度と高く、影響の大きい南海トラフ地震への対策や九州一広い地域の過疎化対策が求められています。

■ これからの基本方向

- ・基幹産業の養殖業を持続発展させる構造改革を推進します。
- ・豊富な森林資源を活かして、佐伯地域材の安定供給を推進します。
- ・温暖な気候を活かした持続可能で活力ある地域農業の展開に取り組みます。
- ・東九州自動車道「佐伯～延岡南」が無料区間であることを活かし、佐伯への入り込み客の増加を図ります。
- ・南海トラフ地震による震度5を超える揺れや3mを超える津波への対策を図るとともに多彩な資源を活かした活力ある地域づくりを進めます。

■ 主な取り組み

①全国トップレベルの養殖業の経営強化など、安定した雇用の場の確保

- ・ブリ類養殖の複合化・協業化による経営改善、フィレ加工などによる流通販売促進
- ・ヒラメ養殖の安心・安全の確保と歩留まり向上対策による経営強化
- ・人工種苗によるクロマグロ養殖の生産拡大にともなう新たな雇用の創出
- ・人材育成支援など造船業への支援
- ・佐伯港を活かした物流や人流による地域経済の活性化

②全国に先駆けた「佐伯型循環施業」による木材安定供給の推進

- ・高性能林業機械の導入等素材生産の高効率化による認定林業事業体の育成・強化
- ・原木の集荷システムや木材乾燥の効率化などによる製材工場の体質強化
- ・佐伯型循環施業の推進のため、苗木（スギコンテナ苗）生産者の育成、生産施設の整備による苗木供給体制の確立

③温暖な気候を活かしたよりもうかる農業生産体制の確立

- ・県南の温暖な気候を活かしたいちご、キクなど主要品目の団地化及び高糖度トマトなど特産品目の高技術化による安定生産体制の確立
- ・より糖度を高めた完熟不知火（デコ330）のブランド化のさらなる推進
- ・「佐伯市ファーマーズスクール」設置等による新規就農者の育成や公開講座「みかん学校」の開催による兼業農家・定年帰農など多様な担い手の確保

④東九州自動車道を活かした食観光の促進

- ・「味力全開！九州一佐伯ツーリズム重点戦略2014改訂版」を基に、各ICを基点とした周遊型観光の促進、おもてなしの強化、観光施設の魅力アップやフェリーの活用など総合的な事業の推進
- ・味力全開の飲食店の磨き上げや加工品づくりなど、地産地消による食のまちづくりの推進

⑤九州一広い街・浦・里の安心・安全で活力ある地域づくり

- ・「むらの覚悟」など、住民と事業者が一体となった防災対策を絡めた地域づくり
- ・NPO法人宇目まちづくり協議会に代表される複数集落によるネットワーク・コミュニティの推進

【活力】 7. 活力みなぎる地域づくりの推進

(2) 特徴ある地域づくり

IV 豊肥地域

■ 現状と課題

- ・ 豊肥地域は、県内で主要な農業地帯であり、夏秋野菜、花き、肉用牛、乾しいたけ等で有数の産地ですが、高齢化や後継者不足により農業の担い手が減少しています。
- ・ 豊かな自然に恵まれるとともに、伝統芸能・文化が継承されており、これらの地域の魅力に惹かれ工芸家や若手アーティストの移住が進んでいます。加えて日本ジオパーク、ユネスコエコパーク等の新たな観光資源が創出されつつあります。
- ・ 久住・直入地域は、炭酸泉の長湯温泉をはじめ多数の温泉に恵まれており、また、豊富な草資源を有する久住高原があります。これらの資源を産業に一層活用することが必要です。
- ・ 中九州横断道路の整備が進み利便性が向上する一方、地域が単なる通過点となることがないよう取り組みを強化する必要があります。

■ これからの基本方向

- ・ 農業経営の大規模化や6次産業化による競争力のある農業経営体の育成を進めます。
- ・ 就農学校や企業参入等による新たな担い手の確保に取り組みます。
- ・ 豊富な自然と食材等の地域資源を活かした観光の振興を図ります。
- ・ 県内でも有数の高原地帯の特徴を活かした観光や畜産の振興を図ります。
- ・ 乾しいたけ等地域の特徴ある農林産物の振興を図ります。
- ・ 地域の伝統や文化、芸術、工芸などを活かし地域の活性化を図ります。
- ・ 中九州横断道路を活かして、産業振興や人を呼び込む取り組みを推進します。

■ 主な取り組み

①競争に打ち勝つ農業経営体の育成と新たな担い手の確保

- ・ トマト・ピーマン・キク・露地野菜・肉用牛等大規模経営体への育成
- ・ カボス・トマト等の6次産業化の推進
- ・ 100m～600mの地域内の標高差を活用した特徴ある露地野菜の作期拡大と周年供給産地化
- ・ 県農業大学校や県農林水産研究指導センター等と連携した人材育成の強化と生産技術の高度化
- ・ 農業を支える畑地灌漑施設や水路の整備・保全
- ・ インキュベーションファーム（就農学校）や「のれん分けシステム」等を核とした新規就農者の確保と担い手の育成
- ・ 広大な畑地や中九州横断道路延伸を活かした企業参入の推進
- ・ サトイモ・ハボタン等園芸作物の導入や低コスト化による集落営農法人の体質強化
- ・ トマト・カボスの箱詰や甘太くんの出荷調整など農業分野への障がい者雇用の促進
- ・ 日本一の産地である乾しいたけの大阪や福岡など都市圏へ向けた消費拡大を推進
- ・ 「しいたけ原基塾」等による中核的生産者の育成と、生産量の確保・品質向上の推進
- ・ 木質バイオマス発電所への広域供給体制の確立による未利用木材の利活用推進

②豊かな地域資源を活かした新たな誘客促進

- ・ 日本ジオパーク・ユネスコエコパーク・九州オルレの活用
- ・ 「道の駅」の機能強化と相互連携の推進
- ・ 地域の食材を活かした特色ある食の開発・食品加工産業の育成
- ・ 東九州自動車道の開通及び中九州横断道路の延伸を見据えた観光素材の磨き上げとPRの推進

③高原や温泉を活用した産業の振興

- ・ 広大な牧野を活用した肉用牛放牧の推進
- ・ 久住高原や温泉を活用したスポーツツーリズム・ヘルスツーリズム産業の創出
- ・ 観光資源である草地景観の維持に向けた野焼き等の取り組み支援

④郷土芸能や特産品など地域の特徴を活かした地域づくりの推進

- ・ 県外からの移住アーティストとのコラボレーションによる地域の活性化
- ・ 郷土芸能・地域の祭りの継承・保全と観光素材としての磨き上げ
- ・ サフラン・ムラサキ等の特徴ある作物を活かした地域づくりの支援

【活力】 7. 活力みなぎる地域づくりの推進

(2) 特徴ある地域づくり

V 西部地域

■ 現状と課題

- ・日田玖珠地域は、素材生産量が県内一の約4割を占めるとともに、原木市場での取扱量や製材工場での原木消費量も多く、一大林業・木材産業地帯を形成していますが、一方で人工林の多くが伐期を迎えていることから、森林資源の積極的な活用が求められています。また、既に稼働している木質バイオマス発電所やバーク燃焼ボイラーへの林地残材等の安定供給が必要となっています。
- ・肉用牛の飼養頭数は県内一ですが、全体では減少傾向にあり、規模拡大と担い手の確保が必要です。酪農は、飼養戸数・頭数、生乳出荷量とも県内一ですが、飼養戸数が減少しており、経営基盤確立のため、飼料の低コスト化や堆肥利用の促進が求められています。
- ・地域の特色ある気候・風土を活かして、なし、すいか、白菜、わさび、トマト、白ねぎ、しいたけなどの生産が盛んですが、新規就農者の確保や規模拡大が必要です。
- ・雄大な自然・体験施設と温泉、歴史・文化に彩られた町並みや四季を通じたまつりなどの恵まれた地域の特色に加え、中津日田道路や玖珠工業団地の整備進展を活かして、交流・定住人口の拡大につなげる必要があります。

■ これからの基本方向

- ・主伐－再造林－保育の循環施業を確立し、「なりわい」となる林業の実現をめざします。
- ・畜産経営の規模拡大と担い手の確保を推進するとともに、自給飼料生産の拡大と循環型酪農業の促進を図ります。
- ・なし、すいか等地域の特性を活かした園芸品目の生産拡大と販路拡大のため、ブランド力の強化を図ります。
- ・福岡や熊本と隣接する強みを活かして、自然・温泉・歴史と文化に彩られた町並み等恵まれた地域資源に磨きをかけ、滞在交流型観光を推進します。
- ・里山の保全や水環境の改善など森に育まれた水郷ひたを再生することにより地域ブランドの構築を図ります。

■ 主な取り組み

①地域経済を支える林業・木材産業の振興

- ・山林の積極的な主伐と、路網整備等による素材生産活動の強化や林業事業体の活動エリアの広域化の推進
- ・木材の安定供給・価格安定のため、合板メーカーとの協定販売の促進と工場誘致
- ・製材工場の規模拡大と連携による有利販売(邸別出荷)や製材品輸出の促進
- ・日田林工高校との連携等による担い手の確保育成

②飼養環境に恵まれた畜産の振興

- ・大規模肥育経営体の規模拡大による域内繁殖肥育一貫経営の推進
- ・酪農の経営基盤強化のため、堆肥利用による飼料生産の推進と牛舎環境等の整備

③地域の強みを活かした農業の振興

- ・なし、トマト、ピーマンなど生産の維持拡大に対応するための新規就農者の育成
- ・日田なしブランド強化のため、大苗育苗・流線型仕立の普及と輸出拡大
- ・すいか・白菜の後継者の育成強化と法人化の推進
- ・高標高地を利用したトマトや白ねぎの生産拡大と参入企業の技術力向上
- ・ウメ・スモモ・ユズ・ブルーベリー等特産果樹の安定生産と販路拡大
- ・市場の需要拡大に対応したわさびの生産拡大
- ・乾しいたけ・生しいたけの消費拡大のため、隣接した福岡等へのPR活動の強化

④県境を活かした交流の促進による観光の振興

- ・豊後森機関庫整備やななつ星等特別列車の運行を契機とした久大沿線観光の推進
- ・オートポリスや咸宜園、ひなまつり等を核にした誘客と域内循環の仕組みづくり
- ・夏の冷涼な気候と温(冷)泉等を活かしたスポーツ合宿の誘致などスポーツツーリズムの推進
- ・観光推進母体の組織強化と地域総合プロデューサーの育成

⑤水と緑にあふれる豊かな地域の再生

- ・木質バイオマス発電等による未利用木材活用の推進
- ・土壌改良資材や木材乾燥用熱源としてのバークの有効活用の推進
- ・陸上自衛隊と関係市町との連携によるシカ捕獲等、有害鳥獣対策の推進
- ・筑後川水系の豊かな水環境の創出による水郷ひたの再生と地域ブランドの構築
- ・中津日田道路や玖珠工業団地など新たな社会インフラの整備による産業の集積

【活力】 7. 活力みなぎる地域づくりの推進

(2) 特徴ある地域づくり

VI 北部地域

■ 現状と課題

- ・ 北部地域は県内一の水田農業地帯です。加えて、約500haの広大な干拓地があり、豊前海には日本三大干潟とも呼ばれる広大な干潟が広がっています。また、醸造会社をはじめとした地域密着の食品加工会社が多く立地しています。こうした地域資源を活かし、第一次産業の振興を図っていくことが必要です。
- ・ 製造業を中心に多くの事業所が立地し、特に自動車産業では、県内唯一の自動車メーカーの生産工場を核に集積が進んでいます。その一方で、コスト競争力や開発力の強化、多様な人材の確保・育成が課題となっています。
- ・ 貴重な歴史的遺産や文化的景観に恵まれ、また、東九州自動車道の開通や世界農業遺産の認定等を契機として、広域的な観光振興の取り組みも始まっていますが、こうした資源を十分に生かし切れておらず、より戦略的な誘客対策が必要です。
- ・ 人口減少による地域消滅への危機感が高まる中、仕事をつくり、人を呼び込み、まちの賑わいを取り戻そうと意欲的な若手リーダーや団体が育ってきています。

■ これからの基本方向

- ・ 農業では低コスト化や生産性向上を進めるとともに、水産業では資源回復による「豊前海ブランド」の再生に取り組みます。また、原料安定供給による食品加工産業の生産拡大と農林水産品の付加価値向上を図ります。
- ・ 自動車産業においては、技術力・企画開発力の強化に向けた取り組みの支援を行います。併せて働きやすい環境づくりを進め、人材確保の円滑化をめざします。
- ・ 地域の観光資源に一層の磨きをかけながら、豊の国千年ロマン観光圏のブランド確立に努め、交流人口の増や滞在時間の延長に結びつけます。
- ・ 地域コミュニティの組織強化や、各市における移住・定住促進の取り組みを積極的に支援し、地域の活性化を後押しします。

■ 主な取り組み

①地域の特性を最大限に活かした第一次産業の振興と6次産業化の推進

- ・農地中間管理事業と大区画圃場整備を組み合わせた低コスト水田農業経営体の育成
- ・こねぎ、ぶどうの就農学校、花きのファーマーズスクールの運営支援等による新規就農者の確保
- ・白ねぎの周年安定供給体制の強化、高品質化による「大分白ねぎ」のブランド力強化
- ・ガザミ、アサリ等の水産資源の回復とカキなど新たな水産資源のブランド確立
- ・ワイン醸造用ブドウの安定供給と焼酎原料麦の品質向上・契約栽培の拡大
- ・そば、黒大豆、ハモ等地域産品の加工品開発と販路拡大の推進

②集積する自動車関連企業のさらなる競争力強化に向けた支援

- ・現場改善指導、コストマネジメント強化や九州域外から調達されている機能部品などの受注機会拡大の支援
- ・工科短期大学校、完成車メーカー、自動車関連企業等の連携によるものづくり人材の育成支援
- ・子育て支援施策の推進、ワーク・ライフ・バランスの普及等による労働力の確保・定着の支援

③地域固有の旅体験で人を呼び込む観光の振興

- ・歴史文化資源の磨き上げと観光ガイド養成など受入体制の強化
- ・国東半島峯道ロングトレイル、メイプル耶馬サイクリングロード、宿坊体験、グリーンツーリズムなど、滞在時間の延長を狙った宿泊・体験型観光の振興
- ・広域周遊ルートの造成

④地域コミュニティの活性化に向けた取り組みの支援

- ・都市や大学との地域交流の促進、空き家活用等の移住・定住促進策への支援
- ・ツーリズム大学修了生のレベルアップや地域おこし協力隊員経験者の定着等による地域リーダーの養成
- ・地域商品開発・販売拠点整備などを通じたコミュニティビジネスの支援